

医療的ケア児等コーディネーター養成研修

実施の手引き

目 次

I 医療的ケア児等コーディネーター養成研修の基礎的理解

1. 「医療的ケア児等」とは
2. 「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」の受講対象者
3. 「医療的ケア児等コーディネーター」に求められる資質・役割
4. 「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」のカリキュラム

II 地域で医療的ケア児等コーディネーター養成研修を実施するために

1. 運営体制の整備
2. 予算確保
3. 会場と開催日
4. 講師等の選定
5. 募集・受付の準備
6. 研修会資料等の準備
7. ファシリテーターの事前打ち合わせ
8. 研修会開催
9. 研修会最後のまとめとふり返し

III 参考情報

I 医療的ケア児等コーディネーター養成研修の基礎的理解

この研修は、「医療的ケア児等」の支援を総合調整するコーディネーターを養成するための研修です。

1. 医療的ケア児等とは

この研修でいう「医療的ケア児等」は、次の障害児者の方です。

- ・人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児
- ・重度の知的障害と重度の肢体不自由が重複している重症心身障害児者

2. 「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」の受講対象者

この研修でいう「医療的ケア児等コーディネーター」は、医療的ケア児等の支援を総合調整することになります。このため、研修受講の対象者は、主に相談支援専門員、保健師、訪問看護師等を想定しています。

また、この医療的ケア児等コーディネーターには、医療的ケア児等に対する専門的な知識と経験に基づいて、支援に関わる関係機関との連携（多職種連携）を図り、とりわけ本人の健康を維持しつつ、生活の場に多職種が包括的に関わり続けることのできる生活支援システム構築のためのキーパーソンとしての役割が求められています。

3. 「医療的ケア児等コーディネーター」に求められる資質・役割

医療的ケア児等コーディネーターには、次のような資質と役割が求められています。

- 医療的ケア児等に関する専門的な知識と経験の蓄積
- 多職種連携を実現するための水平関係（パートナーシップ）の構築力
- 本人中心支援と自立支援を継続していくための家族との信頼関係づくり
- 医療的ケア児等の相談支援業務（基本相談、計画相談、ソーシャルワーク）
- 本人のサービス等利用計画（障害児支援利用計画）を作成する相談支援専門員のバックアップ
- 地域に必要な資源等の改善、開発に向けての実践力

4. 「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」のカリキュラム

コーディネーターの役割を理解するとともに、コーディネーターとして必要な知識や技術の習得等を学ぶためのカリキュラムとなっています。

Ⅱ 地域で医療的ケア児等コーディネーター養成研修を実施するために

地方自治体においては、研修を実施するにあたり、以下の点に留意し、企画・運営を行っていただきたいと考えています。

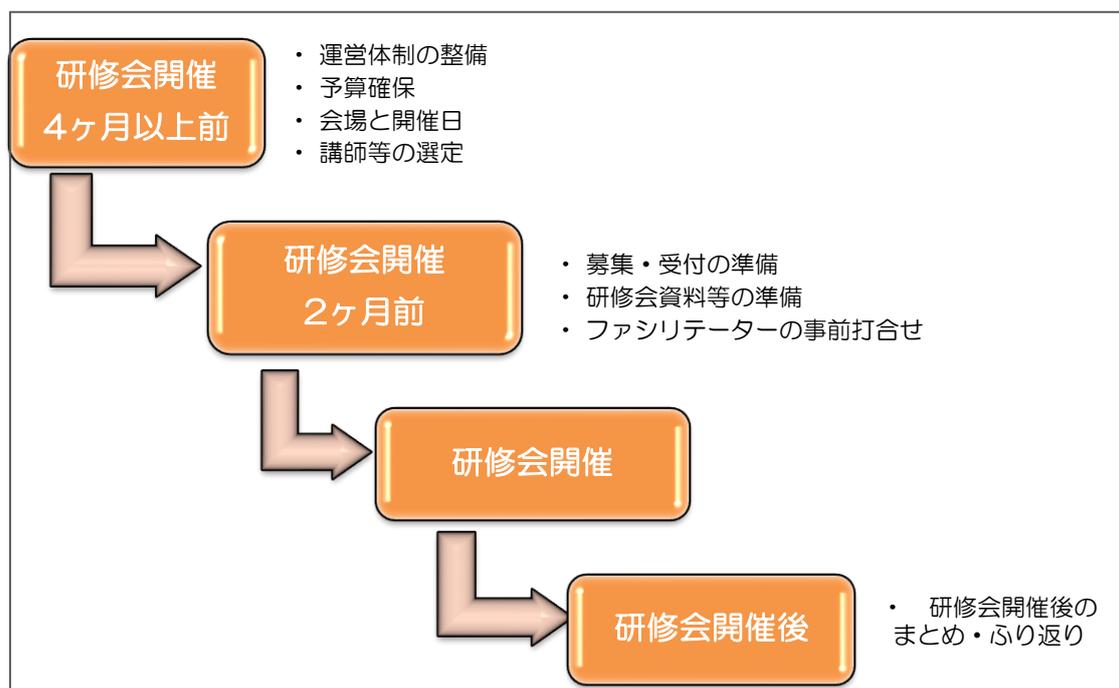
1. 運営体制の整備

医療的ケア児等コーディネーター養成研修の運営体制は、「事務局」と「実行委員会（検討チーム）」を分けた方が望ましいと考えます。

- 事務局： 研修の準備から報告までの進行管理と事務一般を行います。
- 実行委員会（検討チーム）： 医療的ケア児等の方への支援経験が豊富な人を中心とした検討チーム（実行委員会）を組んで、この検討チームが主体的に研修の企画・運営を行います。地域の自立支援協議会等既存の会議の活用も考えられます

なお、この研修の企画・運営を行う実行委員会等を通して、地域において、医療的ケア児等支援の情報交換等を行うことができるネットワークが作られ、医療的ケア児等の支援体制の構築が進むことも期待されます。

研修を開催する際には、次のスケジュール案を参考にして下さい。



2. 予算確保

事務局や実行委員会の規模や事前準備の頻度、講師の謝金、会場費、開催案内とその配布等により支出が決まってきます。この手引き書では、具体的なモデル案は提示しませんが、受講者の自己負担額をどの程度に設定するかは本研修において重要な事項です。

3. 会場と開催日

研修の支出額に大きな影響を及ぼすのが、研修会場の確定です。公的な会場の利用が可能なら、費用をかけずに会場の確保ができます。一方、比較的大きな定員を想定した場合、基礎と実践を合わせて4日間（連続日程である必要はない）会場をおさえるには、早い段階から企画を立案する必要があります。会場を確定することで、募集定員が自ずと確定します。また、演習の運営方法次第で定員も変わってきますので、慎重に判断してください。研修は、可能な限り、現場で働いている受講生にとって参加しやすい日程を組んでいただければと思います。

4. 講師等の選定

研修講師と演習のためのファシリテーターの選定が必要となります。講師とファシリテーターには、原則「実行委員会」のメンバーが分担し、実施することが望ましいと考えます。

「受講者用テキスト」以外の資料については、講師・発表者に事前に作成依頼し、当日までに印刷しておく必要があります。

研修講師には、地元で活躍されている者で、または将来活躍されるだろう者を含めることが効果的でしょう。また、演習のファシリテーターには、地域で医療的ケア児等を対象に計画相談を行っている事業所の相談支援専門員等が望ましいでしょう。

5. 募集・受付の準備

障害児相談支援事業所等に、研修の開催要項について情報が行き届くような方法を工夫してください。代表的な募集方法は、次のとおりです。必ず複数の方法を組み合わせて広報を行ってください。

- チラシを印刷し配布する（郵送・FAX）
- 障害児相談支援事業所等の管理者・相談支援専門員等が集まる研修会やイベントでチラシを配布
- 事業者が必ず閲覧する WEB ページに掲載
- 事業所間のメーリングリストで送付

受講者には、受講決定書と事前提出書類を発送します。また、受講者の中でも経験や知識の差がありますので、演習のグループ分けはレベルで分けた方が適する場合もあるでしょう。

6. 研修会資料等の準備

- 研修テキスト（「医療的ケア児等支援者養成研修テキスト」と「医療的ケア児等コーディネーター養成研修テキスト」）
- バインダー（受講生用のテキスト・資料等をひとまとめにする）
- 研修テキストの補足資料
- 座席表
- 名札（受講者用、講師・ファシリテーター用、事務局用）
- 参加者等名簿

- 演習教材（ワークシート、演習シナリオ、マーカー他）
- 受付セット一式（参加者名簿、文房具、領収書、つり銭）
- 修了証
- ノートパソコン（液晶プロジェクター接続用ケーブル）
- 記録用器具（デジタルカメラ、ビデオカメラ、三脚、記録媒体）
- その他事務用品（梱包用具、紙コップ等）

7. ファシリテーターの事前打ち合わせ

ファシリテーターは、演習を活性化するための黒子の役割を持っています。当日のファシリテーターの動きについては、テキスト内の【演習のポイント】参照してください。

受講生の学びを促進するため、期待されるファシリテーターの役割

ほとんどの受講生は、医療的ケア児等に対する相談支援を実践した経験を有していないことが想定されます。その為ケースを活用したグループワークを通じて、実際の支援を疑似体験し、相談支援の要点をつかんでもらうことが必要となります。その為には、学びを先導するファシリテーターの役割が重要となります。ファシリテーターに期待される役割は、以下のとおりです。

- ① 受講生の話を聴く
- ② グループ内で各受講生の話を全員で理解できるよう、質問する
- ③ グループ内の議論や話題が、学習目標からそれていないか議論のプロセスを管理する
- ④ グループ内の全受講生が、より積極的に議論に参加できるよう、受講生の学習に対する積極性や、相談支援に対する考えを引き出すためコーチングする
- ⑤ 自身の経験もふくめ、重症児者への相談支援の要点を受講生に教える
- ⑥ 議論をグループ内で合意形成できるよう支援する

8. 研修会開催

医療的ケア児等コーディネーター養成研修のカリキュラムについては、次の通りです。各自治体においては、この科目、内容、日数、時間数に沿って研修を組んでください。研修日程は基礎と実践を合わせて4日間ですが、連続して実施する必要はありません。

また、研修会を修了した者に対して修了証書を交付してください。

■ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修日程表

科目名	時間数	内容
1 総論	1時間	①医療的ケア児等の地域生活を支えるために ②医療的ケア児等コーディネーターに求められる資質と役割
2 医療	3時間	①障害のある子どもの成長と発達の特徴 ②疾患の特徴 ③生理 ④日常生活における支援 ⑤救急時の対応 ⑥訪問看護の仕組み
3 本人・家族の思いの理解	2時間	①本人・家族の思い ②意志決定支援 ③ニーズアセスメント ④ニーズ把握事例
4 福祉	3時間	①支援の基本的枠組み ②福祉の制度 ③遊び・保育 ④家族支援 ⑤虐待
5 ライフステージにおける支援	2時間	①各ライフステージにおける相談支援に必要な視点 ②NICUからの在宅移行支援 ③児童期における支援 ④学齢期における支援 ⑤成人期における支援 ⑥医療的ケアの必要性が高い子どもへの支援
6 支援体制整備	1時間	①支援チーム作りと支援体制整備/支援チームを育てる ②支援体制整備事例 ③医療、福祉、教育の連携 ④地域の資源開拓・創出方法
7 計画作成のポイント	2時間	演習に向けた計画作成のポイント
8 演習（計画作成）	7時間	事例をもとにした計画作成の演習

9 演習（事例検討）	7時間	事例をもとに、意見交換（グループディスカッション）・スーパーパイザーによる計画作成の指導
------------	-----	--

9. 研修会開催後のまとめと振り返り

研修会開催後に研修についてのまとめと振り返りを行ってください。また、研修修了者について修了証書番号、修了年月日、氏名、連絡先等必要事項を記載した名簿を作成し、都道府県の責任において個人情報として十分な注意を払った上で一元的な管理のほどお願いします。

Ⅲ 参考情報

関連する研修がありますので、さらに学びたいとする受講者にご紹介のほどよろしくお願ひします。

A 『全国重症心身障害日中活動支援協議会』

概要：行政説明（厚労省・障害保健福祉施策の動向）、及び重症心身障害児者へ日中活動系サービスを提供している事業者の実践報告等

参加対象：全国重症心身障害日中活動支援協議会の会員、及び重症心身障害児者の支援に携わる者

開催月：毎年10月（2日間）

開催場所：全国を6地区に分け毎年順番に開催する。開催地区の担当事業所が会場を手配する

主催：全国重症心身障害日中活動支援協議会

※実践報告のテーマ「日中活動」「医療・看護」「家族・地域・その他」

※希望者のみ施設・事業所見学あり

問合わせ先：全国重症心身障害日中活動支援協議会
011-879-5555（TEL）〈担当：木村〉

B 『全国重症心身障害日中活動支援協議会 地区別研修会』

概要：地区ごとにテーマを設け研修プログラムを作成し企画、開催する

参加対象：全国重症心身障害日中活動支援協議会の会員、及び重症心身障害児者の支援に携わる者

開催月：開催月は地区による（例年、7月から11月の間）（1又は2日間）

開催場所：開催担当事業所が会場を手配する（全国を7地区に分けて地区ごとに研修会を実施）

主催：全国重症心身障害日中活動支援協議会 地区担当事業所

※昨年度の研修プログラム例 講演、シンポジウム、グループ討議、体験型ワークショップ、実践報告、施設見学等

※昨年度の主な研修テーマ：地域社会との連携・呼吸管理が必要な方の日中活動参加・通園におけるリハビリテーション・医療的ケアの必要な重症児者の受入れの課題と体制作り・看護と介護の連携・地域生活における課題と展望・子どもの遊びについての学習・音楽療法・地域生活の広がりを目指す取組・日中活動支援における具体的な医療的ケア

問合わせ先：全国重症心身障害日中活動支援協議会
011-879-5555（TEL）〈担当：木村〉

C 『重症児ケアにおける医療・福祉・教育の連携』

概要：各地域で重症心身障害児者をはじめとした医療的ケア児に対する生活支援のための多職種連携ができるように先進地事例を学び、今後、受講生が各都道府県の医療計画及び、福祉計画の立案に委員として参画できるよう行政の仕組み等についても理解を深める内容を企画する。また多職種の顔と顔が見える連携の構築方法について理解を深め、受講生がより、地域に根付いた活動が行える内容も盛り込む。

開催場所：愛媛県

参加対象：80名

主催：日本訪問看護財団

問合わせ先：公益財団法人日本訪問看護財団立 在宅ケアセンターひなたぼっこ
089-993-6774（TEL）〈担当：安藤〉

D 重症心身障害児者等コーディネーター育成研修

概要：重症心身障害児者及び医療的ケア児に対し、地域で暮らすための社会資源のコーディネーターとして機能する人材を育成することを目的に、平成27年度厚労省科研にて作成した2つのプロ

グラム（重症児者支援者育成、コーディネーター育成プログラム）を基本とし、愛媛周辺地域の相談支援専門員と訪問看護師を対象に研修を開催する。

主催：日本訪問看護財団

開催月：平成29年2月～3月（4日間）

開催場所：愛媛県松山市市内

参加対象：50名

問い合わせ先：公益財団法人日本訪問看護財団立 在宅ケアセンターひなたぼっこ

089-993-6774（TEL）〈担当：安藤〉

E 『医療的ケア研修セミナー』

目的：家庭・学校・通園通所施設などにおいて、在宅地域生活支援のために「医療的ケア」が拡がりを持ちながら適切に行われるよう、専門職が知っておくべき方法・技術、リスクおよび制度論などの諸問題について研修し、支援者が知識を共有できることを目的とする

対象：重症神経疾患児・重症心身障害児（者）等の、医療・療育・教育・通園通所・訪問看護などに携わる、医師・看護師・保健師・理学・作業療法士・言語聴覚士・教員・保育士など

開催日：平成28年11月27日

開催場所：長崎大学病院第4講義室

主催：一般社団法人日本小児神経学会

問い合わせ先：一般社団法人日本小児神経学会

03-3351-4067（FAX） childneuro-jscn@mbr.nifty.com

F 『小児等在宅移行研修事業多職種合同研修』

目的：小児在宅医療にかかわる多職種が支援する子どもの病態、支援制度についてそれぞれの職種の文化を超えて、共に学び合い、協同作業を行うことで、実際に重症心身障害児や医療的ケア児の支援を行うためのスキルを身に付ける

主催：東京都（東京都から医療法人財団はるたか会が委託をうけての事業）

開催日：平成28年9月～平成29年2月まで

研修日数：2日間

開催場所：東京都内

参加対象：都内の在宅診療を担う診療所医師 周産期母子医療センター等の職員、保健所、保健センター等の保健師、訪問看護ステーションの看護師、区市町村障害福祉主管課職員等

参加費用：無料

問い合わせ先： 医療法人財団はるたか会 子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田
03-6658-8792 (TEL) 〈担当 部・井上〉